



露頭：地下にある岩石が地表に顔を出しているところを露頭といいます。この写真は約七千万年前に海底に堆積して出来た地層（和泉層群）の露頭です。元来水平にたまった地層が地殻変動によりほぼ垂直になっている様子が観察できます。（第2章 岩石・鉱物・化石の採集と標本の作り方）



ウメバチソウ：じっくり観察すると、白い花卉の内側に、先端に球をつけた細い糸の束が見られます。これは、昆虫を呼ぶために変化した雄しべ（仮雄蕊）です。詳細な観察と記録・標本資料の作成は、調査の基本です。（第3章 植物の採集と標本の作り方）



キベリハムシ：キベリハムシは日本では兵庫県南部付近にのみ分布する大型の美麗種です。中国原産の帰化昆虫だと考えられ、日本の個体群はビナンカズラとマツブサを寄主とし単為生殖します。分布調査や飼育観察の対象となります。(第4章 昆虫の採集と標本の作り方)



植生の調査：森を調べる際にはこのように調査枠を設置すると作業しやすくなります。(第5章 森を調べる)



アマサギ：本州には夏鳥として渡来するシラスギの1種。他のサギ類と一緒に森林に集団繁殖地をつくって繁殖します。水生動物を主食とする他のサギ類と違って、草原の昆虫類を主食とする。繁殖期には、頭から首にかけて赤くなることからアマサギの名がついたと考えられます。

(第6章 鳥を調べる)



山で出会ったタヌキ(足立 勲氏撮影)：哺乳類は、直接観察が最も難しい分類群です。そのため、足跡、フン、食べあとなどのフィールドサインの調査が生息状況調査の第一歩となります。(第7章 哺乳類を調べる)



ため池：畦や土手が管理されたため池は数少なくなりました。灌漑用に人が作り出したため池は、里山と同じように人の手が常に入り管理されることによって初めて多様な生き物が住める環境が維持されるようです。
(第8章 ため池を調べる)



兵庫津の今と昔を比べる：西国名所図会の「湊川」に描かれた風景と、今の兵庫の風景を比べると、海岸線と近景（摩耶山など山の風景）は変わりませんが、湊川の改修によって都市の緑軸が無くなったことがよくわかります。
(第9章 古写真と今を比べよう)